

トランプ大統領がレーガン大統領と並ぶ変革者となる可能性について

2016年11月14日

りそな銀行 アセットマネジメント部
チーフ・マーケット・ストラテジスト 黒瀬浩一

20世紀に米国経済の黄金時代は3度あった。最初は鉄道などインフラ整備で重厚長大産業が開花した1920年代、2回目は戦後復興と英国からの覇権のシフトで国際金融のドル支配体制が確立した1960年代、そして最後がIT革命と財政黒字を達成した1990年代だ。最後の1990年代の経済的繁栄の基礎は、1980年の大統領選挙で圧勝したレーガン政権が作ったと評価されている。レーガンの政策は、経済と社会に大きな変革をもたらしたという意味で、「レーガン革命」、「新保守主義革命」とも呼ばれる。

トランプとレーガンには、変革期のリーダーとしての共通点が多い。以下、順を追って見てみよう。尚、先の大統領選挙の出口調査では、変革を期待する有権者は圧倒的にトランプを支持した。

(1) 選挙スローガン

「偉大な米国の復活(Make America Great Again)」は全く同じスローガンだ。但し、レーガンは西側諸国の盟主を前提としたが、トランプは「米国第一」を掲げた点において相違がある。もし「米国第一」が懲罰的な高関税など他国の犠牲の上に成り立つとすれば、相当な国際的摩擦が起こるリスクはある。

(2) 米国の衰退期に現れた変革者

スローガンが「偉大な米国の復活」であることは、米国が衰退期にあったことの反映でもある。1970年代の米国は、国際政治ではソ連など東側陣営との冷戦において中南米で相次いだ左派政権の誕生やイラン革命など極めて劣勢だったこと、経済的には双子の赤字(経常赤字と財政赤字)や低成長と高インフレが併存するスタグフレーションで危機的な状況に陥ったこと、国内社会ではリベラルが行き過ぎて若者がヒッピーやドラッグに走り自己責任が疎かにされたこと、などの現象が起きた。そこで登場したのが「偉大な米国の復活」をスローガンとしたレーガン大統領だった。

トランプの登場は、国際政治では中東やアジアでの米国の指導力の低下、経済ではリーマンショック後の大停滞説、国内社会ではLGBT運動や不法移民の増加、などの面で共通している。

(3) 変革期のリーダーの経歴

変革をもたらすリーダーは、当然のことながら保守本流に合致する経歴ではない。元俳優のレーガンは、人気テレビ番組の司会者で語りが上手い、離婚歴がある、妻が芸能人、ワシントンでの政治の経験がない、就任時点で史上最高齢の大統領、等の特徴を持つ。今となっては信じがたいが、当時これらは、大統領として不適格の烙印を押された特徴だ。

この5つは全てトランプと共通する。

(4) 強いリーダーを象徴する事件

大統領としての適性を疑問視されたレーガンだったが、就任してまもなく狙撃事件が起きた。しかし、生命の危機の最中にもジョークを飛ばして周囲を明るい笑いに巻き込み、驚異的な回復力で職務に復帰した。ピンチをチャンスに変えレーガン人気を不動のものにした事件とあって良いだろう。

トランプは投票日直前の演説中に不審者を見つけてジョークを飛ばした後、SPに警護されて舞台から降りた。タフネスと明るいヤンキー気質を併せ持つ人物に、米国人は強いリーダー像を見るのだろう。

(5) 副大統領に実務肌のベテラン

変革型のリーダーは往々にして実務が苦手だ。レーガンは副大統領にワシントンのベテラン政治家だったブッシュ（父）を指名した。しかもブッシュは、共和党の大統領候補争いの段階ではレーガンのサプライサイド経済政策を「まやかし経済学（Voodoo Economics）」と呼んで批判していた。

トランプの副大統領は前インディアナ州知事のペンスだ。同州は日系企業の直接投資が雇用者当たりでは全米で最も多いことで有名だ。州知事の前は12年間下院議員で予算委員長の実験もある。茶会に参加する保守派で、政策的には自由貿易推進などトランプとは大きな相違点がある。パックスンによると、トランプは「大統領の面倒くさい仕事を代わりにやってくれる人を探している」と漏らしたという。

(6) 経済政策は未知数

経済政策が未知数であることも共通している。

レーガンのサプライサイド経済学を単純化すると、減税により投資が増加すれば米国経済は復活する。そうなれば税収が増えて財政再建も達成できる、とする考え方だ。経済の再生と財政黒字は1990年代後半のクリントン政権の時代に実現した。また、規制緩和もレーガンの時代に本格化した。

しかし、経済が再生したのは結果論だ。レーガンが就任した時点でのサプライサイド経済学は、ブッシュ副大統領が「まやかし経済学」と呼んだように、疑念視されていた。規制緩和についても、企業破綻で経済が悪化するという考え方から通貨安要因と見なされていた。

トランプの経済政策は、1兆ドルのインフラ投資、低所得者だけでなく高額所得者も含む大規模な減税、法人税率を35%から15%に引き下げ、中国やメキシコからの輸入に懲罰的な高関税、規制緩和、ドル安、などだ。ドル安以外はレーガンを彷彿とさせる内容だが、課題は、議会との協力体制の構築、政策全体の整合性、高圧経済を前提にFRBとの協力体制の構築、国際的な摩擦のリスク、だろう。

(7) リベラルからの右傾旋回

レーガン革命の本質は、70年代のウーマンリブや公民権運用でリベラル化した社会を右傾旋回させて自己責任を強調したことだろう。社会の変化は社会現象に現れやすい。自己責任を象徴するのは1985年に出版された「フォレストガンプ」で後には映画化もされ大ヒットした。障害を持つ男性が自己責任で人生を切り開き成功する物語で、米国の保守主義革命の象徴と評されている。

近年の米国社会では、LGBT運動や不法移民増加などリベラル化が進んだ。一方で保守化も茶会の影響力増大など徐々に現れていた。2016年のトランプを選択した米国大統領選挙と上下両院で過半数を共和党に与えた議会選挙は、保守化の流れがより広く国民に浸透していたことを示す可能性が高い。

右傾旋回は、安倍政権、フィリピン、ブラジル、など政治が安定する国に共通の傾向となっている。

以上、トランプとレーガンの類似点を見たが、相違点も特に国際関係面では多い。今後、トランプ大統領の政権運営の姿が見えて来るに従い、レーガンと並ぶ変革者になるかどうか、言い換えればトランプ・リスクとトランプ・チャンスのどちらが顕在化するか、を示していきたい。 以上

- ・本資料は、お客様への情報提供を目的としたものであり、特定のお取引の勧誘を目的としたものではありません。
- ・本資料は、作成時点において信頼できるとされる各種データ等に基づいて作成されていますが、弊社はその正確性または完全性を保証するものではありません。
- ・また、本資料に記載された情報、意見および予想等は、弊社が本資料を作成した時点の判断を反映しており、今後の金融情勢、社会情勢等の変化により、予告なしに内容が変更されることがありますのであらかじめご了承下さい。
- ・本資料に関わる一切の権利はりそな銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを固くお断りします。